

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>・校内研究や職員研修によって、個に応じた学びができる授業改善を目指す職員間の雰囲気が出た。職員が互いに情報共有し、学び合いながら授業改善に取り組む姿勢が多く見られた。しかしながら、児童の学力向上には、以前、直結していない部分が見られる。児童が更に学ぶ意欲を高める工夫、自らの学びを実感し、協働的に学ぶ集団の育成のための取組に努めていきたい。同時に、基礎基本の定着も大切にしていきたい。</p> <p>・今年度も「心の教育」や「健康・体づくり」については特別支援教育と支持的風土を基盤にした学級づくりを大切に教育活動を実施し、概ねアンケートでの目標を達成した。学級集団としては、落ち着いた様子が見られるが、不登校傾向や保健室登校、落ち着かない児童など、支援を必要とする児童は数多くみられる。児童や家庭への支援、SC、SSWとの連携、特別支援の充実などの更なる必要性を感じている。</p> <p>・校舎建築に伴い北運動場が使えず、休み時間にも外遊びができない状況にある。心身の発達への影響ができる限り無いように、体育館や南運動場の使用割、一輪車広場の活用、体育授業づくりの工夫を行ってきた。今後も、体力維持と健全な心身の発達のためにできることを考えていきたい。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	<p>思いやりの心をもち、学ぼうとする意欲のある たくましい児童の育成</p> <p>～ 明るいあいさつ・みんな仲良く・文武精いっぱい・話の聞き方日本一 ～</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>①学ぶ力の向上：やる気を引き出す指導の工夫 家庭学習の習慣化 基礎・基本の定着に向けたスキル学習等の提示、実践 読書の推進</p> <p>②豊かな心の育成：自己有用感を育む学級経営 心をゆさぶる道徳教育 感動体験活動 郷土愛を育む活動</p> <p>③健やかな体の育成：体育の充実と運動の生活化 仲間づくり 保健指導の充実と食育の推進</p> <p>④特別支援教育の充実：一人ひとりの実態の把握 集団における授業の工夫や合理的配慮</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	○児童全員が主体的に参加するような授業の実践	○児童アンケートで「授業が楽しい」と肯定的な回答をした児童の割合85%以上	・個別最適な学びと、協働的な学びのある授業づくりの工夫を図る。			
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童アンケートで「思いやりのある行動をしようとしている」と肯定的な回答をする児童の割合80%以上	・望ましい思考や行動を喚起する道徳教育についての研修を実施する。 ・「ふれあい道徳」を実施し、いのちの教育や道徳教育の充実を図る。							・道徳教育推進教員
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめ防止等（防止のための取組、事案対処等）」について組織的対応ができている」と回答した教員80%以上	・心のアンケートを実施し、児童の実態把握といじめの早期発見を行う。 ・気になる児童についての情報共有を行うとともに、毎月情報交換会を実施する。							・教育相談担当 ・生徒指導担当 ・人権・同和教育担当
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○「早寝・早起き・朝ごはん」を奨励し、保護者アンケートで肯定的な回答をする割合を95%以上	・6年間を通して、地域ボランティアや各講師を招いて様々な体験活動を実施する。 ・各種体験活動では、児童による活動の見通しと体験した学びの振り返りを充実させる。							・栄養教諭 ・養護教諭
	○「安全に関する資質・能力の育成」	○交通事故や事件に巻き込まれることを防ぐとともに、性に関する指導の授業を発達段階に考慮して行う。	・交通安全教室や避難訓練を行い、事故防止と防犯意識を高める。 ・「性に関する年間指導計画」に基づき全学年で性教育を行うとともに、講師を招いた講演会を開いて理解を深める。							・生徒指導担当 ・養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤推進日を設定する。 ・繁忙期とそうではない時期を明確にし、年間を通し、軽重を付けた働き方を行う。 ・Teams等、ICTを活用した業務改善を図る。							・教頭 ・業務改善委員会
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○児童の実態を把握し、一人ひとりに応じた対応を行ったと回答する教員90%以上	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有を密に行う。							・特別支援コーディネーター

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○教職員の資質向上	○教職員の授業力向上	○児童アンケートで「授業が楽しい」と肯定的な回答をする割合を85%以上、保護者アンケートで「学校は子ども達の学力向上に取り組んでいる」と肯定的な回答をする割合を85%以上	・職員同士が切磋琢磨できる環境づくりとして、相互授業参観ができるシステムを設定する。 ・学年やグループ間の連携を図り、授業づくりについて日ごろから相談しやすい環境をつくる。			
○開かれた学校づくり コミュニティ・スクール	○地域と連携した体験活動の推進 ○積極的な情報発信	○地域の人材を活用した体験活動を通して、地域との連携を深める。 ○保護者アンケートで肯定的な回答をする保護者75%以上	・コミュニティセンターや地域学校協働活動推進員と連携し、体験活動の充実を図る。 ・学校だよりや懇談会等を活用し、学校の取組について知らせる機会を設ける。							・教務主任 ・教頭

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
--------------------	----------------------------